

山中諸生に示すさんちゆうしよせい その五ご（王守仁おうしゆじん）

溪邊けいへん 流水りゆうすいに 坐すざ

水流みずながれて 心こころ 共にとも 閑なりかん

知らず 山月さんげつの 上のほるを

松影しょうえい 衣ころもに 落ちおて 斑まだらなり

溪邊坐流水 水流心共閑
不知山月上 松影落衣斑

解説 自然に囲まれた山荘にあつて、感じたままの心境を
門人たちに示した詩。

語釈 ※溪邊Ⅱ谷川。 ※坐流水Ⅱ谷川の流れる見える所に座
る事。 ※閑Ⅱのどか。 ※山月Ⅱ山の端にかかった月。

※松影Ⅱ松の影。 ※斑Ⅱまだら。

通釈 谷川のほとりに腰をおろすと、谷川の流れるは、わが心
と同じようにのどかだ。そのまましばらく谷川の流れると対す
るうち、時が経って夕暮れとなり、いつのまにか、月が山の
端にかかっている。ふと見ると松の影が、わが衣服にまだら
に映っていた。